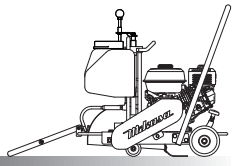
コンクリートカッター

MCD-012H



取扱説明書

ja

三笠製品をお買い上げいただきありがとうございます。
ご使用前に本書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られる所に保管してご利用ください。

「　　」

http://www.mikasas.com

601-02406

目　次

1	はじめに	1
2	機械の用途と警告、及び動力伝達	1
3	警告サイン	2
4	安全のための注意事項	2
	4.1　一般的な注意事項	2
	4.2　給油中の注意事項	2
	4.3　使用場所、換気に関する注意事項	3
	4.4　作業前の注意事項	3
	4.5　作業中の注意事項	3
	4.6　リフティング時の注意事項	4
	4.7　運搬・保管に関する注意事項	4
	4.8　整備上の注意事項	4
	4.9　ラベルの取付位置図	5
	4.10　警告ラベルの絵文字説明	6
5	外観図	7
	5.1　外観寸法図	7
	5.2　コントロール装置位置及び装置名称	8
6	仕様	9
	6.1　本体	9
	6.2　エンジン	9
7	運転前点検	10
8	運転	14
	8.1　始動	14
	8.2　作業	15
9	停止	16
10	輸送	16
	10.1　積み込み、積み下ろし	16
	10.2　運搬に関する注意事項	16
11	手入れと保存	17
12	定期点検と調整	18
13	トラブルシューティング	19

1. はじめに

- この取扱説明書は、コンクリートカッターの正しい取扱方法、簡単な点検及び手入れについて記載してあります。本機の優れた性能を生かし、お仕事の能率を上げ効果的な作業を進める為に、**ご使用前に必ずこの取扱説明書**をお読みください。
- お読みになった後も**必ずお手元に保管**し、分からない事があった時には取り出してお読みください。
- エンジンの取扱に関しては、別途**エンジン取扱説明書**を参照してください。
- 補修部品、パーツリスト、サービスマニュアル及び修理に関しては、販売店・当社各営業所もしくは三笠部品サービスセンターにお問い合わせください。なお、パーツリストは当社ホームページ http://www.mikasas.com/の三笠WEBパーツリストでも公開しております。是非ご利用ください。

この取扱説明書に記載されているイラストが、 設計変更等により一部実機と異なる場合があります。

2. 機械の用途と警告、及び構造と動力伝達

【用途】

ブレード軸にダイヤモンドブレードを装着し、コンクリート及びアスファルトの路面を切断する機械です。
切削する深さに応じた機体で、コンクリートやアスファルトの材齢・コンクリート内の鉄筋の有無等、切削する状況に合わせたブレードを選択して使用します。

【誤用途、誤使用の警告】

無筋コンクリート、鉄筋コンクリート及びアスファルト以外の切断に使用してはいけません。
土砂を切断してはいけません。土砂が飛散し外傷の危険があります。
本機はダイヤモンドブレード専用で、原則として複数枚同時に使用することはできません。また、レジノイドブレードを使用してはいけません。
必ず注水しながら切削して下さい。ブレードの膠着やブレードチップの飛散等が発生し危険です。
ブレードに合った回転数以上で使用してはいけません。ブレードの膠着やブレードチップの飛散等が発生し危険です。
機体が不安定な状態での使用及び不整地での使用は、ブレードの膠着やブレードチップの飛散等が発生しますので使用してはいけません。コンクリート二次製品等の切断に使用しないでください。

【構造】

本体ベース上にエンジンが固定され、Vベルトで動力をベース下部のブレードシャフトに伝えます。ベルトの張り調整は、エンジンを前後にスライドさせる方式です。ベースにはベルトカバー、ガイドハンドル、ブレード昇降調整用のハンドル並びに脱着可能なブレードカバーが取り付けられています。切削深さの調整はブレード昇降ハンドルを回し、前車輪を取り付けたアームを起伏させて行います。走行は、機体を直接押す方式です。

【動力伝達】

原動機は4サイクル空冷単気筒ガソリンエンジンです。エンジン出力軸にはVプーリーが取り付けられており、Vベルトを介してブレード軸を駆動します。ブレード軸にブレードを取り付けて切削を行います。切削深さの調節はブレード昇降ハンドルを回し、前車輪を取り付けたアームを起伏させて行います。切削時の走行は、ハンドルを押して行います。

3. 警告サイン

本取扱説明書及び本機に貼り付けてあるラベルの⚠マークは警告サインです。安全上、必ず厳守してください。

⚠	人体に対する危険がある場合の警告サイン
⚠危険	指示を守らないと、死亡又は重大な傷害事故が生じる危険性が極めて高い場合
⚠警告	指示を守らないと、死亡又は重大な傷害事故が生じる危険性が有り得る場合
⚠注意	指示を守らないと、怪我や障害事故が生じる可能性がある場合
注意（⚠マーク無し）	指示を守らないと、物的な損害が発生する可能性がある場合

4. 安全のための注意事項

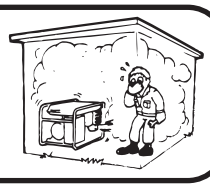
4.1 一般的な注意事項

⚠警告	● こんな時は作業をしない。 ○ 過労や病気等で体調が悪い時。 ○ 薬物を服用している時。 ○ 飲酒をした時。	
⚠注意	● 取扱説明書を良くお読み頂き、正しい取扱で安全に作業を行ってください。 ● エンジンの取扱は別紙エンジン取扱説明書を参照してください。 ● 機械の構造を充分理解してください。 ● 作業を安全に行うために、防護具(ヘルメット、安全靴、耳栓等)を着用し、適切な作業服で作業してください。 ● 常に機械を点検し、正常であることを確認してから運転してください。 ● 機体の貼付銘板(操作方法・警告銘板等)は安全を守るために非常に重要です。機体を清掃し、常に読みやすい状態を保ってください。読みにくくなった場合は、新しい銘板に交換してください。 ● 幼児等が触れると大変危険です。保管方法、保管場所には充分注意してください。 ● 整備する場合は必ずエンジンを停止させてから行ってください。 ● 改造や修正を加える事で発生した如何なる事故に関して、当社は一切責任を負いません。	

4.2 給油中の注意事項

⚠危険	● 燃料を給油する時 ○ 必ず換気の良い場所で行ってください。 ○ 必ずエンジンを停止させ、エンジンが冷えてから給油してください。 ○ 周囲に可燃物の無い平坦な場所を選び、こぼさないように注意してください。こぼれたら良く拭き取ってください。 ○ 給油中は絶対に火気を近付けないでください。(特にタバコを吸いながらの給油は厳禁) ● 燃料は口元一杯まで入れるとこぼれる可能性があり危険です。給油レベルはエンジン取扱説明書に規定された量を守ってください。 ● 給油後は、タンクキャップをしっかり締め込んでください。	

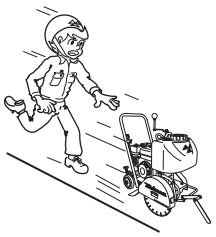
4.3 使用場所、換気に関する注意事項

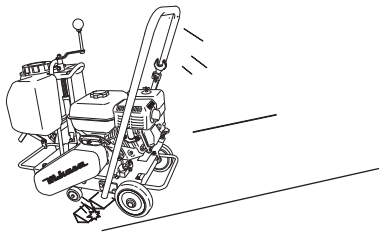
⚠危険	●室内、トンネル内等換気の悪い場所では使用しないで下さい。エンジンの排気ガスには、 有害な一酸化炭素等が含まれており、 大変危険です。 ●火気のある傍での運転はしないで下さい。	

4.4 作業前の注意事項

⚠注意	●各部分の締付具合を点検して下さい。 振動でネジが緩んでいると思わぬ大きな故障の原因となります。 ネジはしっかりと締め付けて下さい。 ●ダイヤモンドブレードにブレードチップの欠損や基板のひび割れ等の異常が無い事を確認して下さい。 ●3 箇月以上ｴﾝｼﾞﾝを回していない場合は、 油膜切れによる機体摺動部の焼き付きを防ぐ為に、 低速で十分に暖気運転を行ってください。	

4.5 作業中の注意事項

⚠注意	●機械を始動したり作業する時は、 周囲の人や障害物に対して安全である事を確認して下さい。 ●常に足場に注意し、 機械のバランスを保てる無理の無い安定した姿勢で作業して下さい。 ●エンジン本体、 マフラーは高温になりますので、 運転時及び運転直後等の熱い時には触れないように注意して下さい。 ●運転中に機械の調子が悪くなったり、 異常に気付いた場合は直ちに本機を停止させ作業を中止して下さい。 ●ブレードが付いた状態でｶｯﾀｰを待機させないようにしてください。 やむを得ない事情で待機運転させる場合には低速で短時間行う事を心がけてください。 ●本機から離れる場合は、 必ずエンジンを停止させて下さい。また本機を移動させる時もエンジンを停止させ、 燃料コックを閉じて下さい。 ●ブレードカバーは必ず装着してご使用下さい。 ●エンジン始動と同時にブレードが回転しますので充分気を付けて下さい。 特に足等を近付けないで下さい。 ●回転部 (ベルトカバー内等) には手、 服等を巻き込まれないように充分注意して下さい。	
⚠危険	傾斜地での注意事項 ●傾斜地では本機を放置しないで下さい。 万一走り出すと重大な事故を引き起こす危険性があります。 ●作業者は、 決して本機から手を離さないで下さい。 本機が自重で動き出し、 重大な事故を引き起こす危険性があります。 ●傾斜地で作業する際は、 必ず本機に対し斜面の上側に位置し、斜面に対して本機が真っ直ぐ下を向くようにして作業を行って下さい。 ●切削後、 止むを得ず本機を傾斜地に停止させる場合は、 必ずエンジンを停止させた上で本機を真っ直ぐ下向きにし、 安全確保のために前車輪に必ず輪止めをして下さい。 この時、機体の前側には絶対に行かないで下さい。 万一本機が衝撃等を受け動き出した場合、 ブレードや本機との接触で重大な傷害を負う恐れがあります。 ●輪止めをする際、 ブレードが手に触れますと大変危険です。必ず本機のベルトカバー側から輪止めをして下さい。	

⚠危険	●停止の際、 水タンクに水が入っていますと重心が高くなりバランスが悪くなる為、 前輪に輪止めをかけても前輪が輪止めを乗り越えて動き出し大変危険です。 この場合必ず水タンクから水を抜いて下さい。  ●傾斜地において路面が濡れていますと、 輪止めが滑り効果が無くなる場合があります。 止むを得ず傾斜地で停止させる場合は乾いた路面に停止させて下さい。 ●傾斜地でのブレード取付取外し作業は危険ですので行わないで下さい。 万一本機が衝撃等を受け動き出した場合、 ブレードや本機との接触で怪我をする恐れがあります。 ●斜面を横断するような作業は行わないで下さい。 本機の転倒やブレードの破損等重大な事故を引き起こす恐れがあります。	

4.6 リフティング時の注意事項

クレーンによる積み下ろし作業は資格が必要です。 クレーンの運転・玉掛け作業の資格がある人が行って下さい。

⚠危険	●吊り上げ作業に対し、 本機部品 (特にフック・防振ゴム) の損傷やネジの緩み・脱落が無く安全である事を確認して下さい。 ●吊り上げ時はエンジンを停止させ燃料コックを閉じて下さい。 ●強度の充分なワイヤーロープ等を使用して下さい。 ●吊り上げ作業は一点吊りフックのみ使用し、 その他の場所 (ハンドル等) での吊り上げ作業はしないで下さい。 ●本機を吊り上げた際、 下には絶対に人や動物を入れないで下さい。 ●安全の為、 必要以上の高さには吊り上げないで下さい。	

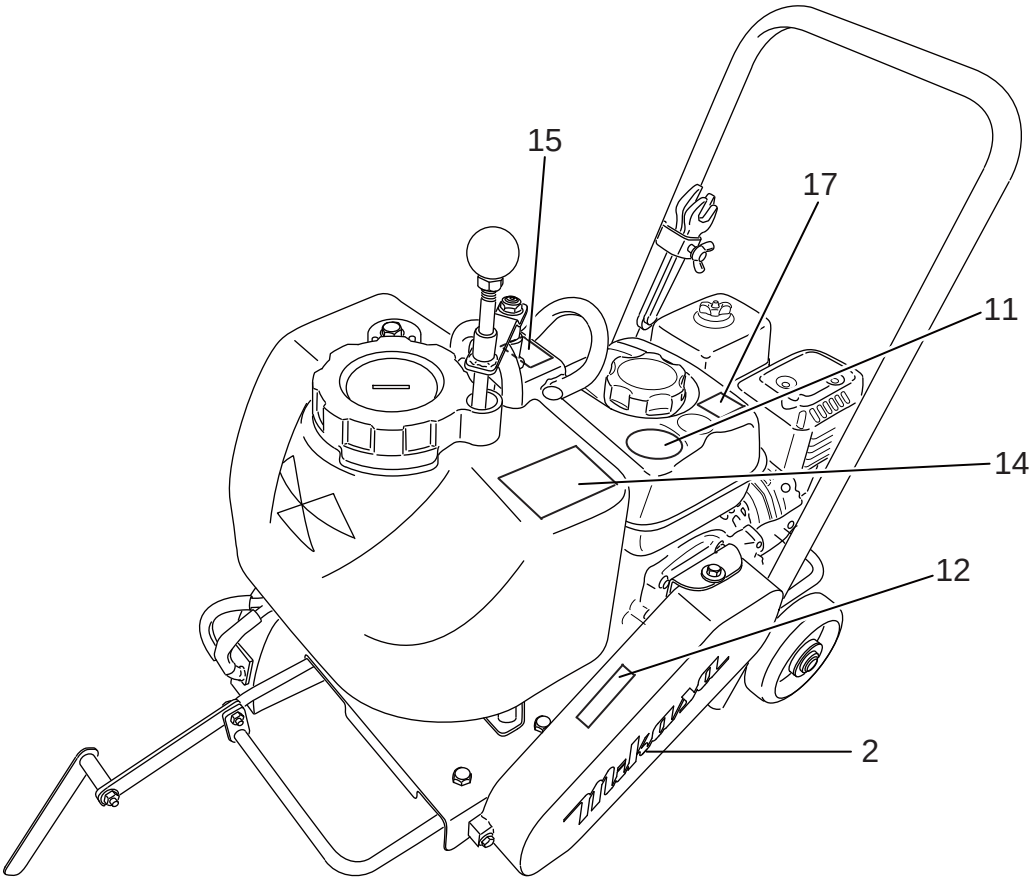
4.7 運搬・保管に関する注意事項

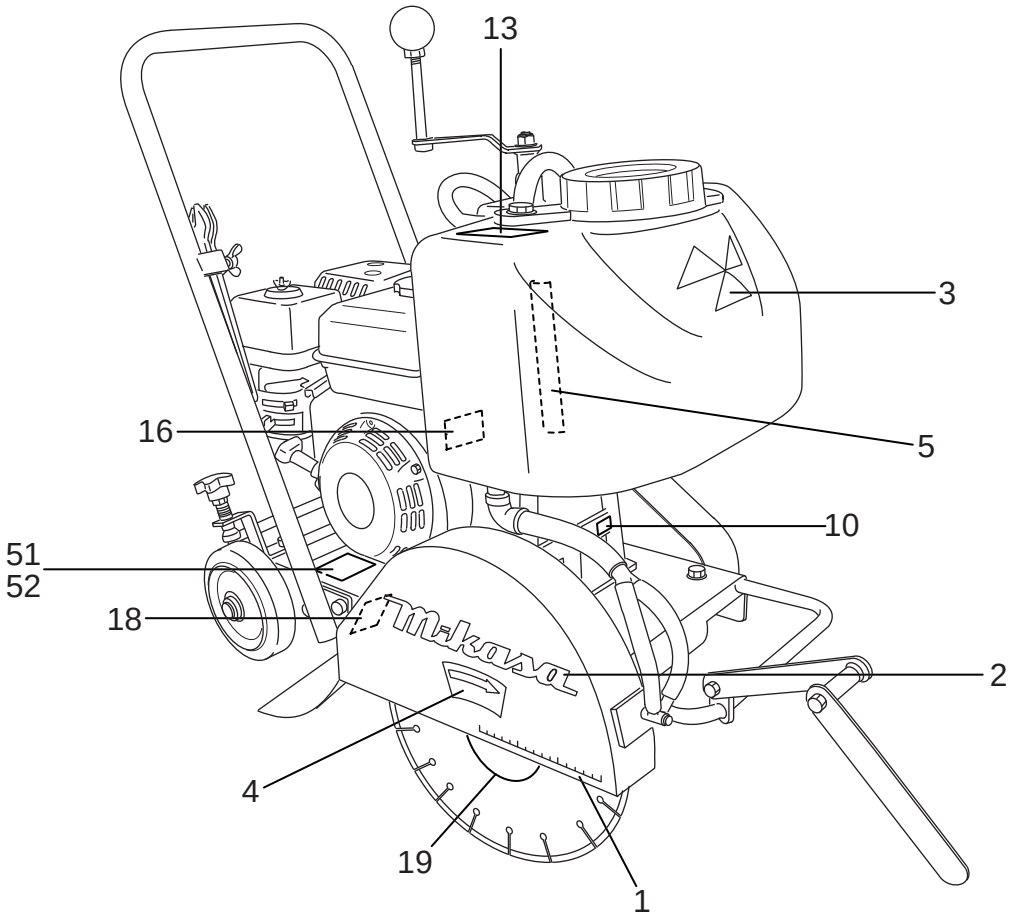
⚠警告	●運搬時はエンジンを停止させて下さい。 ●エンジン及び機体がよく冷えてから運搬して下さい。 ●運搬時は必ず燃料を抜いて下さい。 ●機体が動いたり、 倒れたりしないようしっかりと固定して下さい。	

4.8 整備上の注意事項

⚠注意	●安全を確保し、 本機の性能を維持する為に、 適切な整備が必要です。 機体の状態を充分留意し、 良好な状態を維持して下さい。 特に、 リフティング関連部品の不適切な整備は重大事故の原因となります。 ●本機の温度が下がってから作業を行って下さい。 特にマフラーは高温になり、 火傷をするおそれがあります。 またエンジンやエンジンオイル等も熱くなりますので、 火傷をしないよう充分注意して下さい。 ●点検調整は、 必ずエンジンが停止した状態で行って下さい。 回転部に巻き込まれ、 重大な傷害を負う危険性があります。 ●整備終了後、 保安部品の取付及び安全性の確認を行って下さい。 特に、 ボルト・ナットの点検は充分行って下さい。 ●分解を伴う整備を行う場合は、 必ず整備解説書を参照し、 安全に作業を行って下さい。	

4.9 ラベルの取付位置図





図番号	部品番号	名称	枚数
1	9202-10120	銘板，中型カッター用目盛（ブレードカバー）	1
2	9202-17120	銘板，mikasaロゴ（白）２５０mm	2
3	9201-06870	銘板，三笠マーク（三角６０W）	1
4	9201-02870	銘板，回転方向　／ＮＰ－２８７	1
5	9201-08530	銘板，目盛板（昇降）／ＭＣＤ－０１２	1
10	9201-01200	銘板，グリース	1
11	9202-03330	銘板，騒音保護防止／和英共通／	1
12	9202-04790	銘板，Ｖベルトサイズ（ＲＰＦ－３３００）	1
13	9201-04280	銘板，タンク排水（和英共通）／ＭＲＨ	1
14	9201-06630	銘板，取扱注意　／ＭＣＤ－２１０	1
15	9201-08540	銘板、操作説明（昇降）／ＭＣＤ－０１２	1
16	9201-08550	銘板、操作説明（水コック）／ＭＣＤ－０１２	1
17	9201-08350	銘板，取扱説明書熟読（和文）	1
18	9201-08360	銘板，回転部接触禁止（和文）	1
19	9201-12480	銘板，ブレード取付位置注意／左ネジ	1
51	9202-21450	銘板，製番／０１２Ｈ／国内／ＧＸ１６０	1
52	9202-15640	銘板，ＭＡＤＥ　ＩＮ　ＣＨＩＮＡ	1

4.10 警告ラベルの絵文字説明

No.4

・**騒音による聴覚障害に注意**
本機運転中は、 必ず耳栓やイヤーマフを着用して下さい。

No.24

・**取扱説明書熟読**
運転前に必ず取扱説明書をよく読み、 操作内容を充分理解して下さい。

No.25

・**回転部接触禁止**
回転中のブレードやブレード軸、プーリー、Ｖベルトには絶対に手を触れないで下さい。 ブレードカバーやベルトカバーを外しての運転はお止め下さい。

エンジン付属銘板

① **火気厳禁**
給油時は必ずエンジンを停止させて下さい。給油口に火気を近づけると火災の危険があります。

② **排気ガス中毒に注意**
排気ガスを吸うと一酸化炭素中毒等を引き起こす危険性があります。換気の悪い場所では運転しないでください。

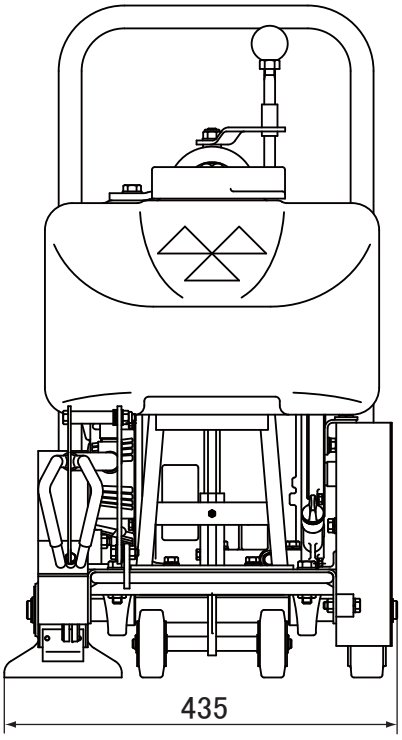
③ **マフラー高温注意**
マフラー及びその周辺に触れないでください。

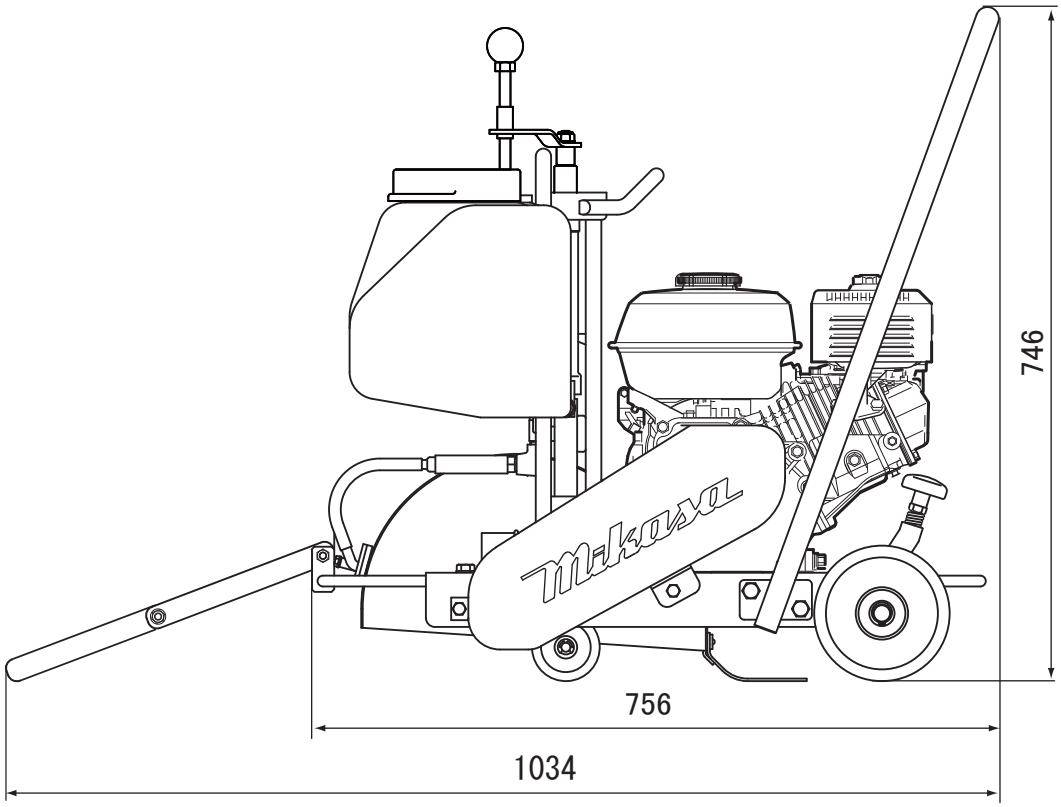
④ **取扱説明書熟読**
安全の為、取扱説明書をよく読み使用してください。

⑤ **燃料注意**
燃料はガソリンを使用してください。

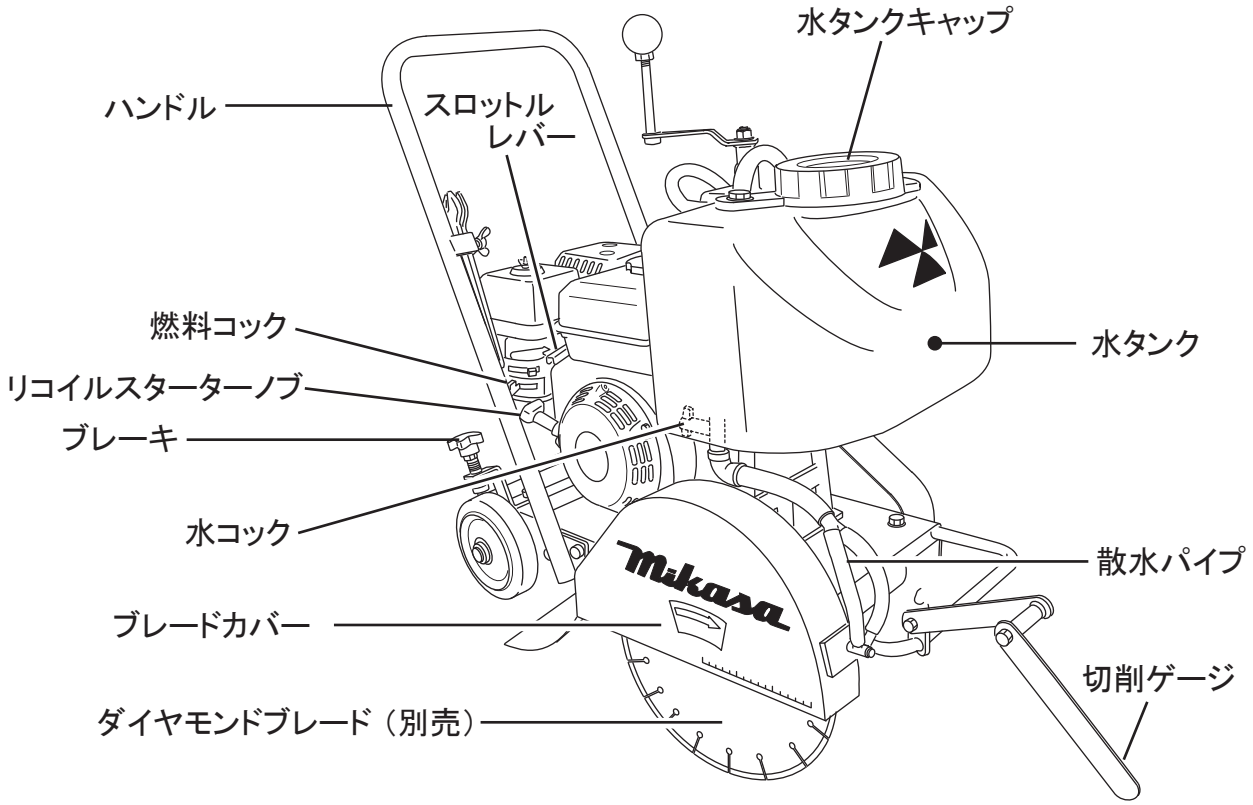
5. 外観図

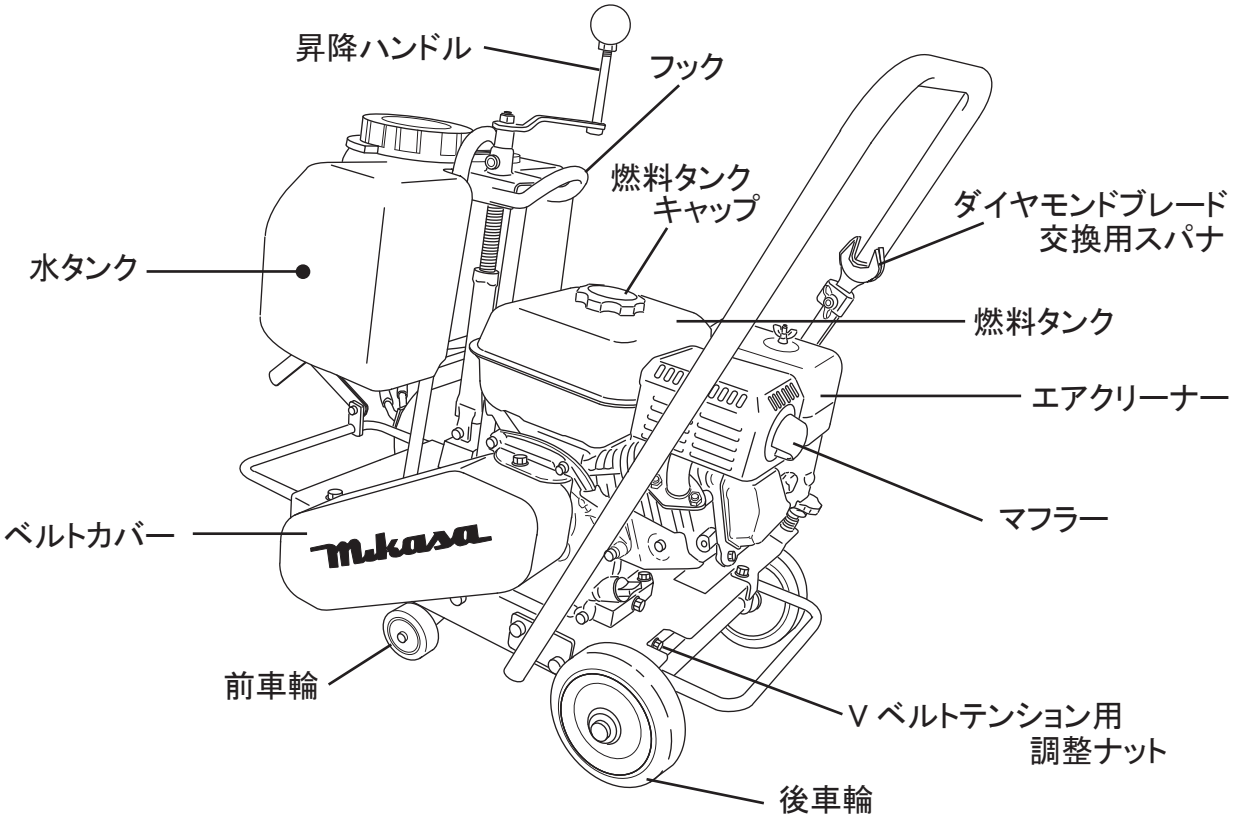
5.1 外観寸法図 (mm)





5.2 コントロール装置位置及び装置名称





6. 仕様

6.1 本体

型　　式	MCD-012H
搭載エンジン	ホンダ　GX160
主 要 寸 法	
全長 (機体水平時)	1034mm
全幅	435mm
全高 (機体水平時)	746mm
使用ブレード寸法	10 吋 (254mm),12 吋 (305mm)
ブレードの穴径	27mm
最大切断深さ	70 ～ 100mm
切断深度調節	手動スクリュー方式
ブレード冷却方式	重力注水飛散方式
水タンク容量	14L
エンジンセット回転数	3,600rpm(min^{-1})
使用ベルト寸法	A-30 / RPF-3300 (2 本)
機械質量	51kg
運転質量	64kg

※ 機械質量: 装備質量 (燃料: 燃料タンク規定容量の1/2、エンジンオイル: レベル上限量)
※ 運転質量: 装備質量＋水タンク満タンの状態

6.2 エンジン

型　　式	ホンダ　GX160
機 関 型 式	空冷 4 サイクルガソリンエンジン
行 程 容 積	0.163L
最 大 出 力	3.6kW/3,600min 4.9PS/3,600rpm
冷 却 方 式	強制空冷式
使 用 潤 滑 油	自動車用エンジンオイル (SE 級以上) SAE#20 ～ #30(寒冷時 10W-30)
潤 滑 油 量	0.6L(600cc)
使 用 燃 料	自動車用無鉛ガソリン
燃料タンク容量	3.6L

7. 運転前点検

⚠危険

エンジンが停止した状態で点検を行ってください。回転部に巻き込まれますと、 重大な傷害を負う危険性があります。
機体を水平にし、 機体が動かない事を確認してから点検して下さい。

★ **作業前の点検箇所は 18 ページに記載されている「各部点検スケジュール表」を参照して下さい。なお、 初回運転前は必ず下記点検項目を全て行って下さい。**

1 **エンジンオイル**

エンジンを水平にしてオイルを点検し、 不足している場合は補充して下さい。 (図 1)
エンジンオイルは下記の表に記載されている物を使用して下さい。

	温度	使用オイル (SE 級以上)
夏	25℃以上	SAE#30
春・秋	25 ～ 10℃	SAE#30、 #20
冬	10 ～ 0℃	SAE#20
	0℃以下	SAE#10

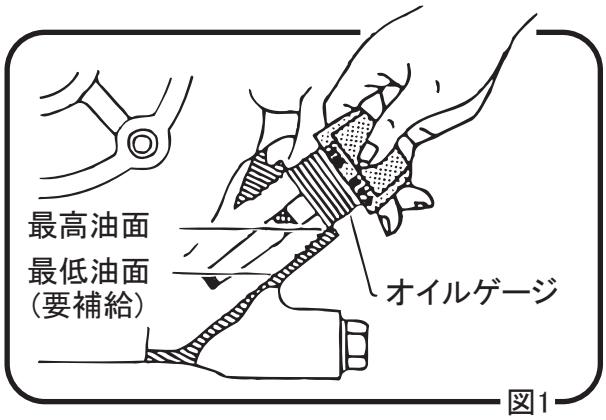


図1

2 **燃料**

燃料は自動車用無鉛ガソリンを使用して下さい。
燃料補給は、 必ずエンジンを停止させ、 補給口に装着してあるコシ網を使用して下さい。 また、こぼれたら綺麗に拭き取って下さい。

3 **V- ベルト**

V- ベルトの緩み及び損傷を点検して下さい。
張り具合は両軸の中間部を指で強く押して 10mm 位たわむように張ってあれば正常です。 張りが不足している場合は張り直し、 交換する場合は 2 本とも交換して下さい。 交換品の使用可能な物は補充部品としてご使用下さい。 ベルトの調整はエンジンを前後にスライドさせて行います。

ベルト調整方法

A ボルト 4 本を取り、 ベルトカバーを外します。 (図 2)

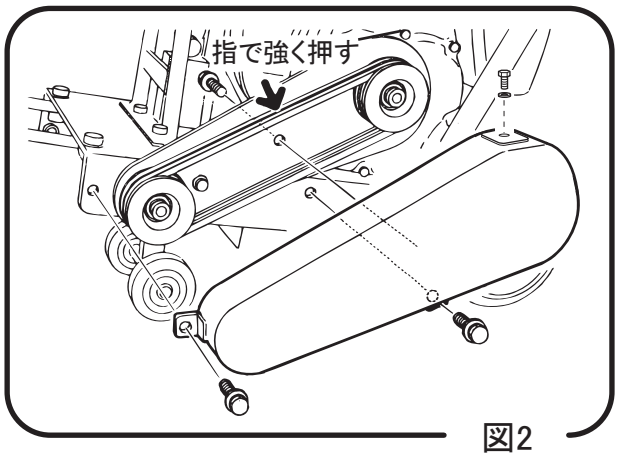


図2

B　エンジン取付ボルト 4 本を緩めます。(図 3)

⚠注意

ボルトは緩めるだけで外さないで下さい。

C　ベース後方にあるベルトテンション調整用ナイロンナットでベルトの張力を調整します。
時計方向に回すとベルト張力が増します。
(図3)

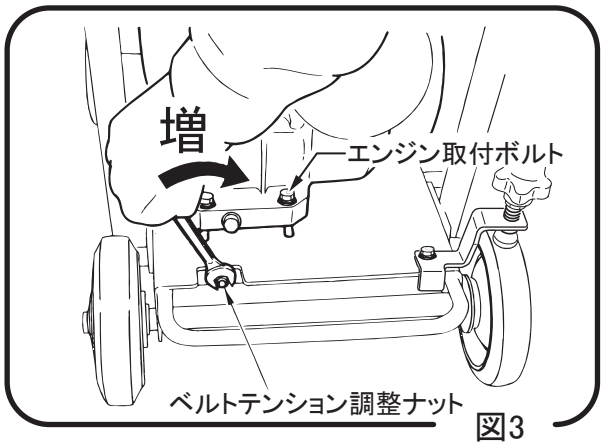


図3

4　水タンク

水タンクは充分に水を入れてご使用下さい。
ブレードの寿命は冷却水の分量によって大きく影響を受けますので、 水が不足しないよう注意して下さい。(容量は14L) (図4)

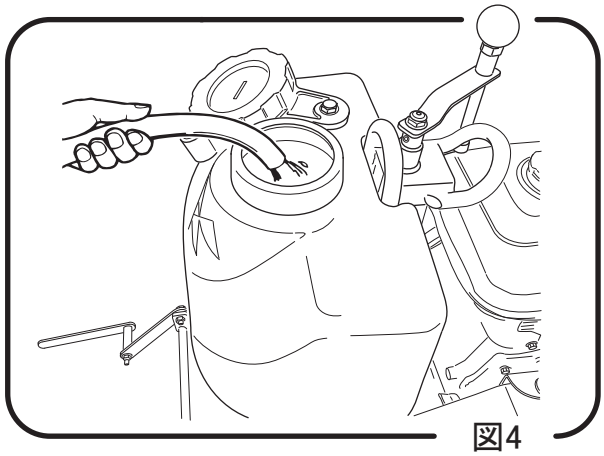


図4

5　散水パイプ

散水コックを開き、水を通して散水パイプが詰まっていない事を確認して下さい。(図 5)

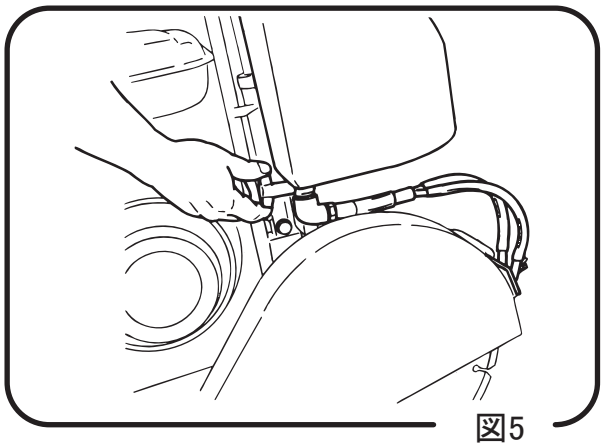


図5

6　ブレードの取付

a. 水タンク下のニップルから水ホースを外し、ブレードカバー裏側のチョウネジを緩めてブレードカバーを上方向に持ち上げながら前方へ回転させてブレードカバーを外します。(図 6)

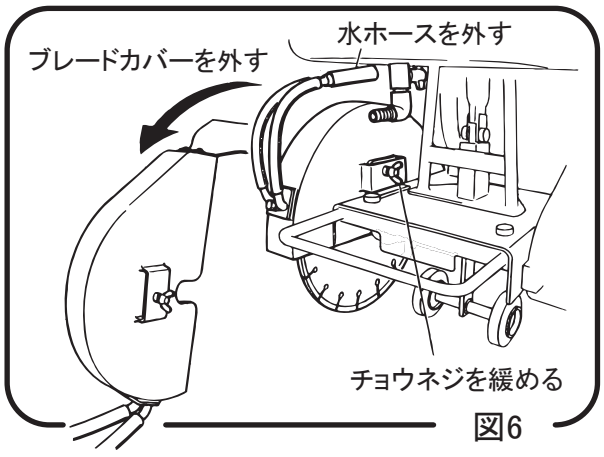


図6

b. ブレードシャフトにフランジ (内)、ダイヤモンドブレード、フランジ (外) の順に入れ、ワッシャを付けてナット (左ネジ) で充分締め付けて下さい。(図 7)

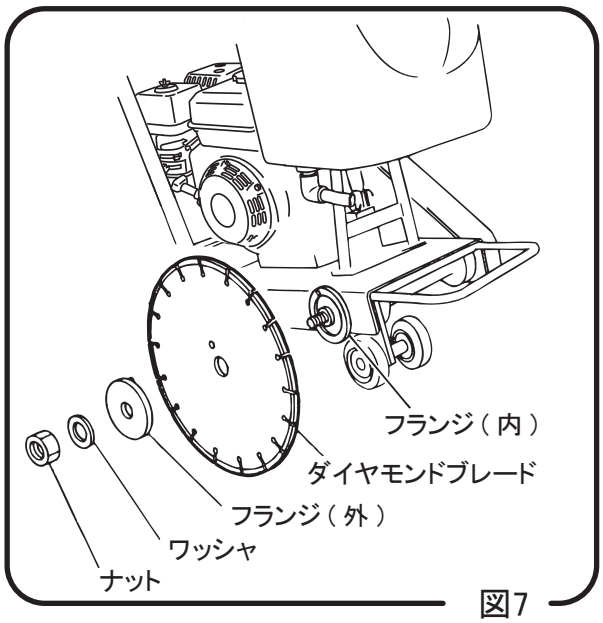


図7

c. ブレードシャフトのスパナ掛け部にスパナを掛けてブレードシャフトを固定し、ナットを反時計方向に回して締め付けます。(図 8)

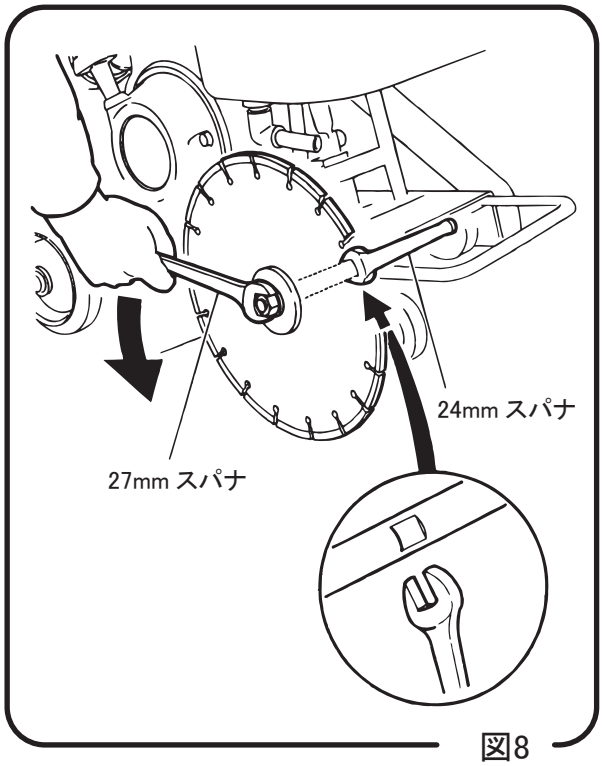


図8

d. ブレード取付後、ブレードカバーをベースへ取り付けてチョウネジでしっかり固定し、外しておいた水ホースをニップルにしっかり差し込んで下さい。(図 9)

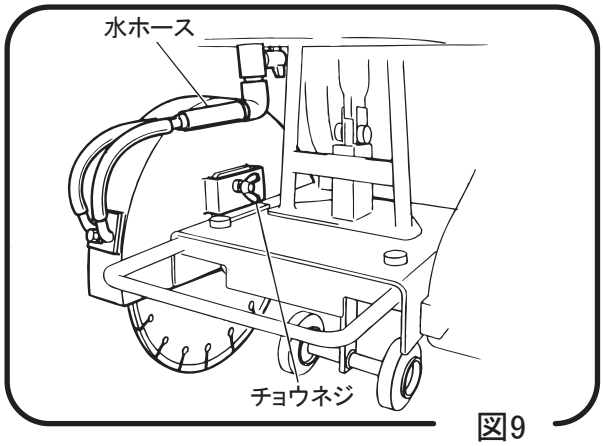


図9

7　機体の昇降方法

a. 昇降ハンドルは振動などで動かないように、水タンクキャップに設けてあるロックホルダーに固定されています。使用時は一旦上へ持ち上げます。(図10)

b. 機体を下げる(切込み時)は昇降ハンドルを時計(右)方向に回します。
機体を上げる時は、昇降ハンドルを反時計(左)方向に回します。(図11)

c. 昇降作業が完了しましたら必ず昇降ハンドルをロックホルダーへ固定してください。

注意
切削作業時に昇降ハンドルが固定されていないと、振動で切削深さが変わる場合があります。

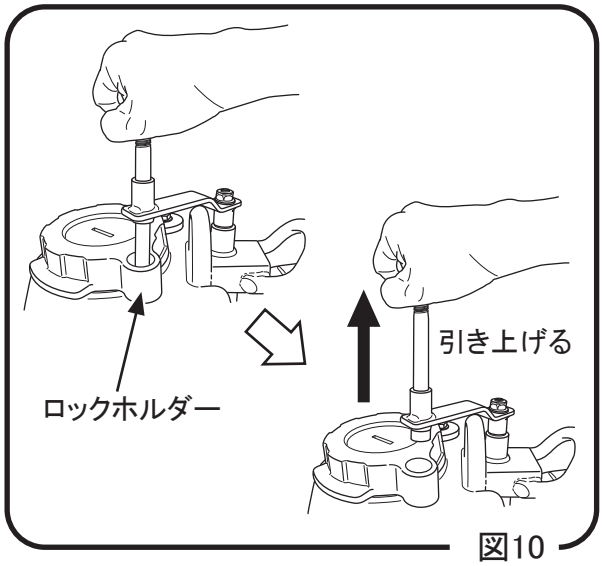


図10

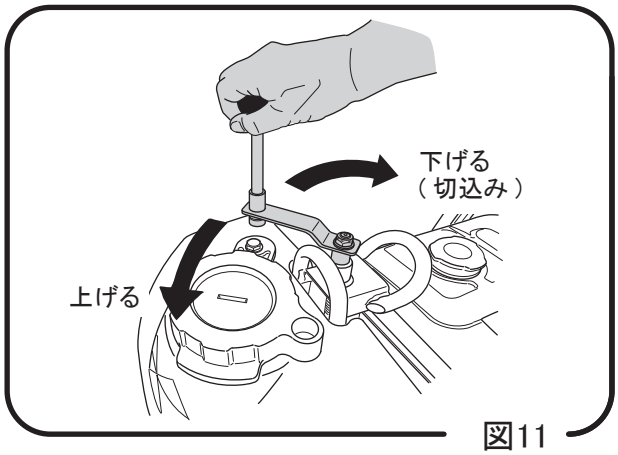


図11

8　各操作ハンドルを動かし、きしみやガタが無いか点検してください。

9　ボルト・ナットの緩みや異常ながたつき等が無いか点検してください。

〈切削深さの読取方法〉

切削深さは、回転の中心であるブレード軸の真下で地表に接した位置(読取位置)からブレードの先端である外周までの距離です。
アスファルト又はコンクリートをダイヤモンドブレードで切り込んだ時、ブレードの側面には回転の筋跡(筋の軌跡)ができます。
切削深さの読み取りは、読取位置にある筋の軌跡を辿ってブレードカバーに貼り付けられたゲージにて外周との距離を読み取って行います。
(図12)

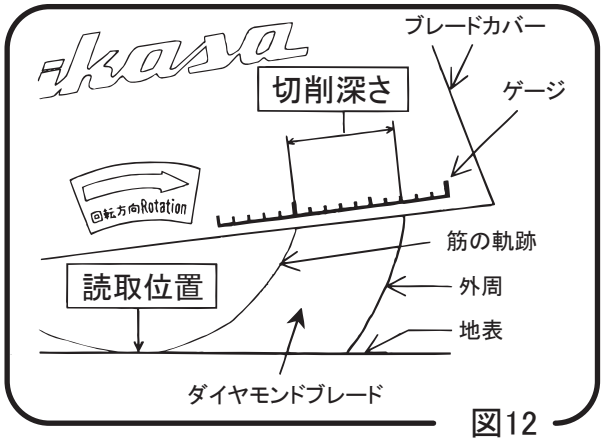


図12

8. 運転

8.1 始動

1　燃料コックのレバーを「開（出）」にして、 燃料を通します。（ 図 13）

⚠警告 **エンジンの排気ガスには一酸化炭素が含まれており大変危険です。**
換気が悪い所では使用しないで下さい。

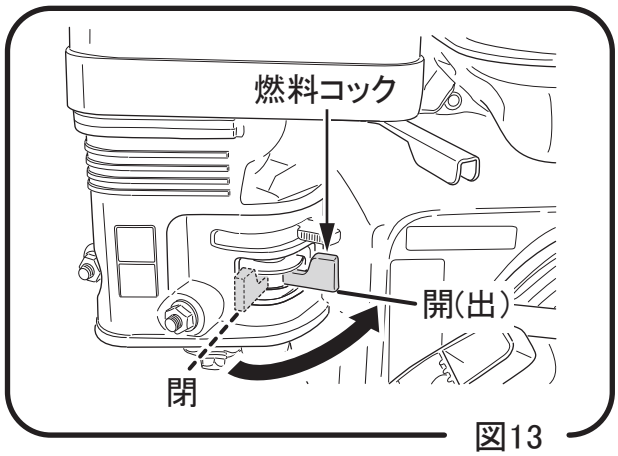


図13

2　ストップスイッチを ON(I) 側に回します。（ 図 14）

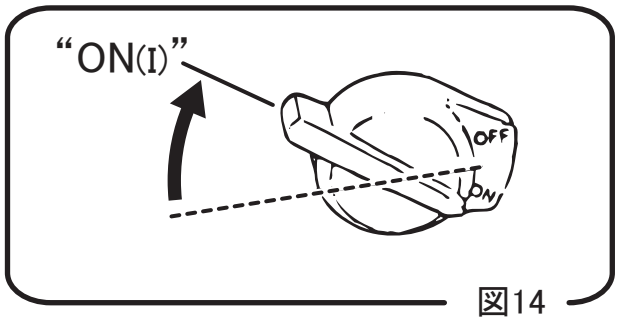


図14

3　キャブレターのチョークレバーを閉じ、 スロットルレバーを半開にします。
うまく始動しなかった場合、 いつまでもチョークを全閉のままにしておきますと燃料の吸い込み過ぎとなりますので半開にして下さい。（ 図 15）

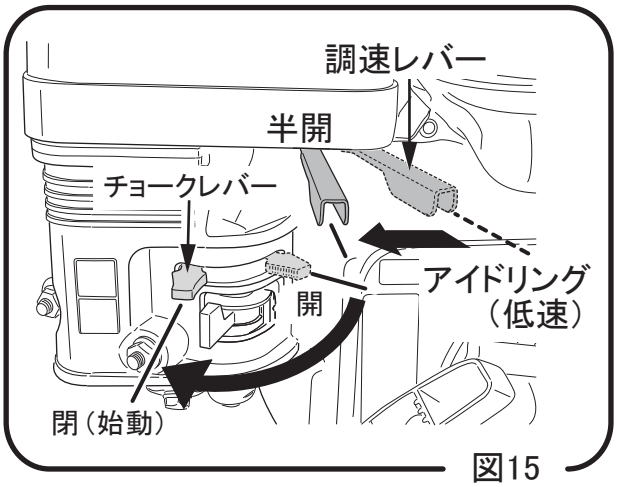


図15

4　リコイルスターターノブを握り、 少し引くと軽く手応えがあります。 そこから勢い良く引っ張って下さい。 この時、 ロープをあまり引っ張り過ぎますとロープを引き抜くおそれがありますからご注意下さい。（ 図 16）

5　エンジンが始動したら、爆発音を聞きながらチョークレバーを戻し全開にします。
始動後は必ず 3 ～ 5 分間低速で暖機運転を行います。 特に寒冷時は必ず実行して下さい。 この間にガス漏れ等異常が無いか確認して下さい。

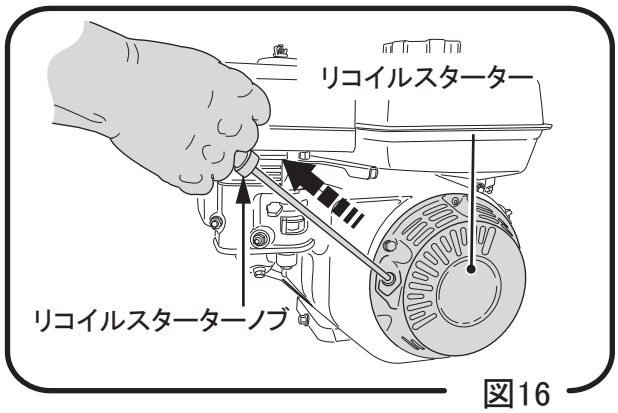


図16

⚠危険 **エンジン始動と同時にブレードが回転しますので、 接触しないよう充分注意して下さい。**

8. 2 作業

1　切削ゲージを切断面に合わせます。(図 17)

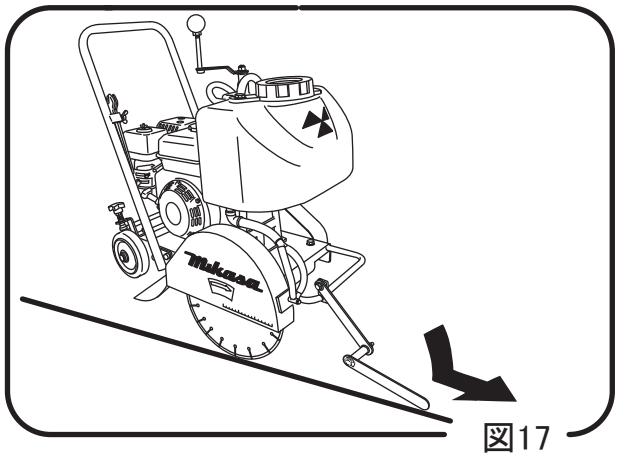


図17

2　水タンクの散水コックを開き、ブレードに冷却水を噴射させて下さい。(図 18)

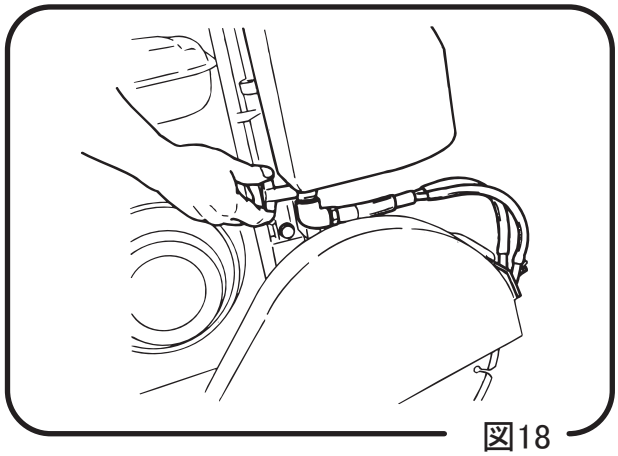


図18

3　スロットルレバーを徐々に開き、エンジン回転数を高速にセットします。

4　昇降ハンドルを時計 (右) 方向にゆっくり回してブレード切断面に接触した所で、水タンクの右後方 (操作者側から見て) にある切り込みゲージを確認し、ゆっくりと希望する深さまでブレードを切り込ませて下さい。(図 19)

5　目盛板 (昇降) でも、簡易的に深さを見る事ができます。(図 20)

※　実際の切削深さの読取は13ページの＜切削深さの読取方法＞を参照してください。

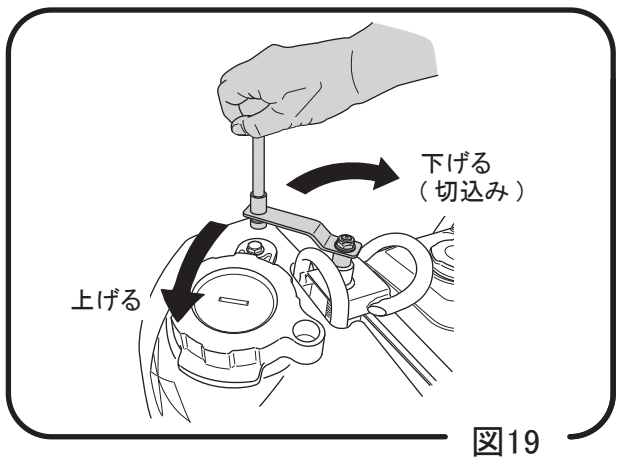


図19

6　エンジン音を聞きながらゆっくりと機体を押し切削して下さい。

⚠注意　急激な切込み・切削はブレードの破損やエンジン・V- ベルト等の耐久性を損なう恐れがあります。

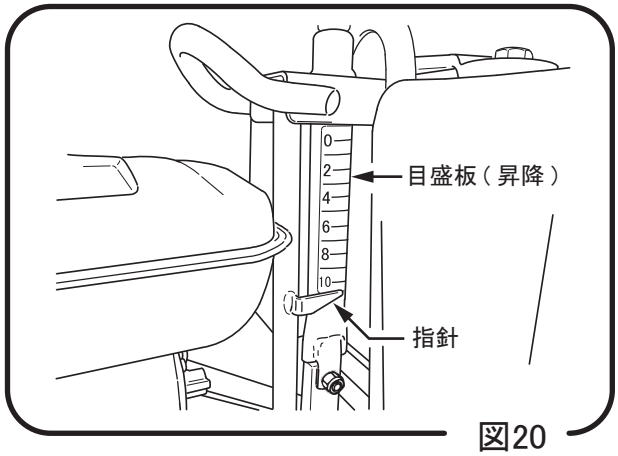


図20

9. 停止

1　切削が終了したら、昇降ハンドルを反時計（左）方向にゆっくり回して機体を上げて下さい。
2　水コックを閉じて冷却水を止めて下さい。
3　スロットルレバーを戻してエンジン回転数を下げ、2 ～ 3 分程エンジンを回してエンジンの温度が下がってから、ストップスイッチを OFF(O) 側に回して下さい。
4　燃料コックを閉じます。
5　平坦な場所で給油や給水する場合は、ブレーキを使用してください。

⚠注意　**スロットルレバー操作時、マフラーが高温になっているので接触しないよう充分注意して下さい。**
切削直後は機体各部が高温になっていますので火傷等に充分注意して下さい。

10. 輸送

⚠警告	●一点吊りフックの破損、ネジの緩み、脱落が無く安全である事を確認して下さい。 ●吊り上げの際は必ずブレードを取り外し、エンジンを停止させ、燃料コックを閉じて下さい。 ●ハンドル部での吊り上げは絶対に行わないで下さい。 ●強度が充分で、キンクや型崩れの無いワイヤーロープを用いて下さい。 ●真っ直ぐに衝撃をかけないように吊り上げ、吊り上げた機械の下には絶対に人や動物が入らないようにして下さい。 ●安全のため、必要以上の高さには吊り上げないで下さい。	

10.1 積み込み、積み下ろし

クレーンによる積み込み・積み下ろし作業はクレーン・玉掛けの資格が必要です。

1　本機の積み込み積み下ろしはクレーン等で行って下さい。
2　積み込み積み下ろし作業の際は指揮者を決め、必ず指揮者の指示により作業を行って下さい。
3　吊り上げの際は必ず一点吊りフックに吊り上げ具を引掛けて下さい。**ハンドルに吊り上げ具を引掛けての吊り上げは絶対に行わないで下さい。**

10.2 運搬に関する注意事項

⚠警告	●運搬時はエンジンを停止させ、燃料コックを閉じて下さい。 ●運搬時は必ず燃料を抜いて下さい。 ●機械が動いたり、倒れたりしないようしっかり固定して下さい。	

11. 保管

1　各部のゴミや泥等を水洗いして落として下さい。

2　水タンク、 配管内の水は抜いて下さい。

3　ブレードシャフトのブレード取付部には清掃後に油を塗布して下さい。

4　ゴミや埃がかからないようにカバーをかけ、 直射日光の当たらない湿気の少ない場所に格納して下さい。

5　作業終了後長期保管を行う場合は
①燃料タンク、 燃料パイプ、 気化器の燃料を抜き取って下さい。
②給油、 オイル補充・交換をもれなく行って下さい。 点火栓を外してエンジンオイルを数適シリンダー内に流し込み、 数回手回しして内部に充分行き渡らせて下さい。
③リコイルスターターを引き圧縮のある所で止めて下さい。
④エアクリーナー、 マフラーの吸入口及び排気口をしっかり覆って下さい。
⑤屋外に放置せず、 屋内に格納して下さい。
⑥本機を横倒しにして保管しないで下さい。

12. 定期点検と調整

1. 各部点検スケジュール表

点検時期	点検箇所	点検項目	油脂類
毎日（作業前）	外観	傷、ゆがみ	
	燃料タンク	漏れ、油量、汚れ	ガソリン
	燃料系統	漏れ、油量、汚れ	
	エンジンオイル	漏れ、油量、汚れ	エンジンオイル
	エアクリーナー	スポンジの埃	
	ブレード	傷、破損	
	昇降装置	機能確認、油脂	グリス
	一点吊フック	破損、傷、ボルト・ナットの緩み・脱落	
	ボルト・ナット類	緩み・脱落	
20 時間毎	エンジンオイル	初回のみ交換	エンジンオイル
100 時間毎	エンジンオイル	交換	エンジンオイル
	昇降装置		
	昇降ネジ（図 21）	傷、曲がり、給脂	グリス
	スライダー基部（図 22）	傷、曲がり、給脂	グリス
	ピローブロック（図 22）	給脂	グリス
200 時間毎	V ベルト	傷、張り	
2 年毎	燃料パイプ類	交換	
不定期	エアクリーナーエレメント	交換	
	ピローブロック	磨耗、異音、がたつき	

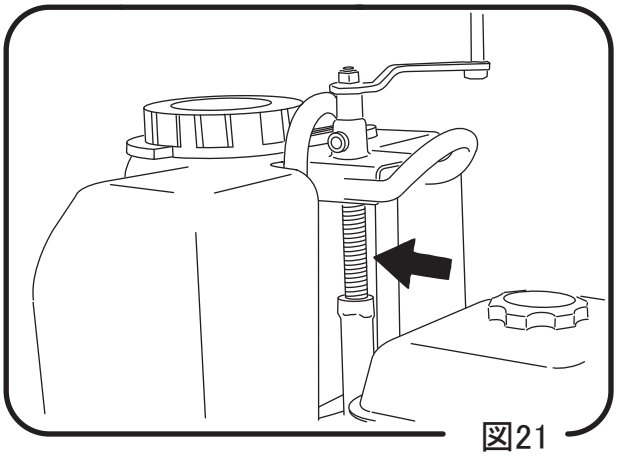


図21

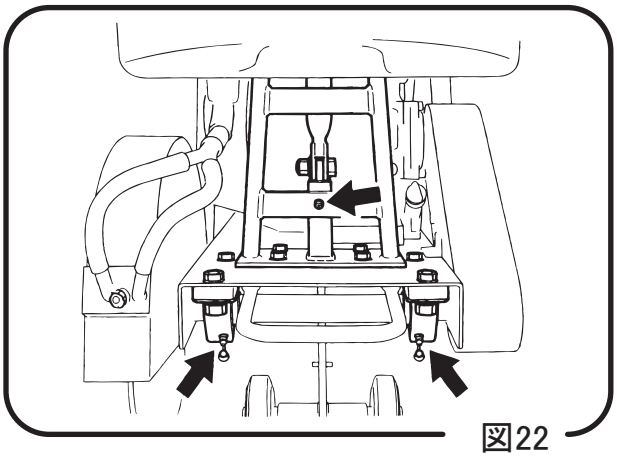


図22

エンジン関係の点検及び整備につきましては、付属のエンジン取扱説明書を参照して下さい。

注）上記は標準状態での点検時間です。使用条件により内容が異なってきますので御注意下さい。

ボルト・ナット類の増し締め等を行う際は、下記締付トルク一覧表に従って下さい。

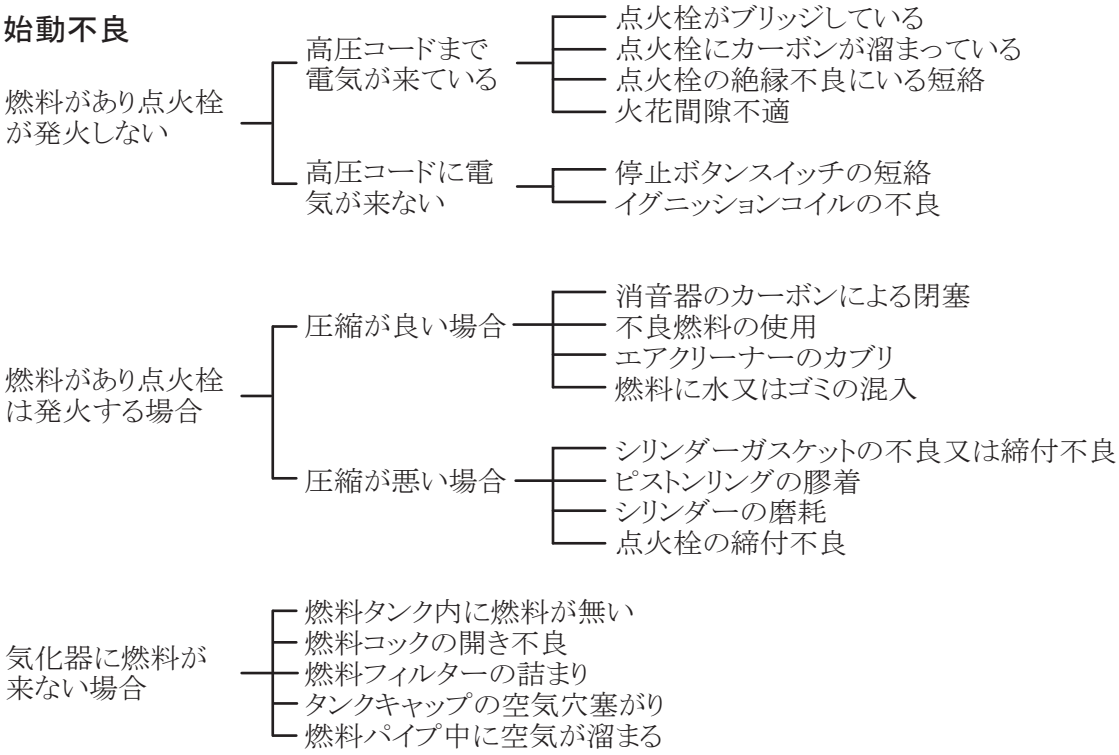
締付トルク一覧表（単位：kgf・cm、1kgf・cm=9.8N・cm）

		ネジ径							
		6mm	8mm	10mm	12mm	14mm	16mm	18mm	20mm
材質	4T(SS41)	70	150	300	500	750	1,100	1,400	2,000
	6-8T(S45C)	100	250	500	800	1,300	2,000	2,700	3,800
	11T(SCM3)	150	400	800	1,200	2,000	2,900	4,200	5,600
	相手材質がアルミニウムの場合	100	300～350	650～700	(本機に使用しているネジは全て右ネジです。)				

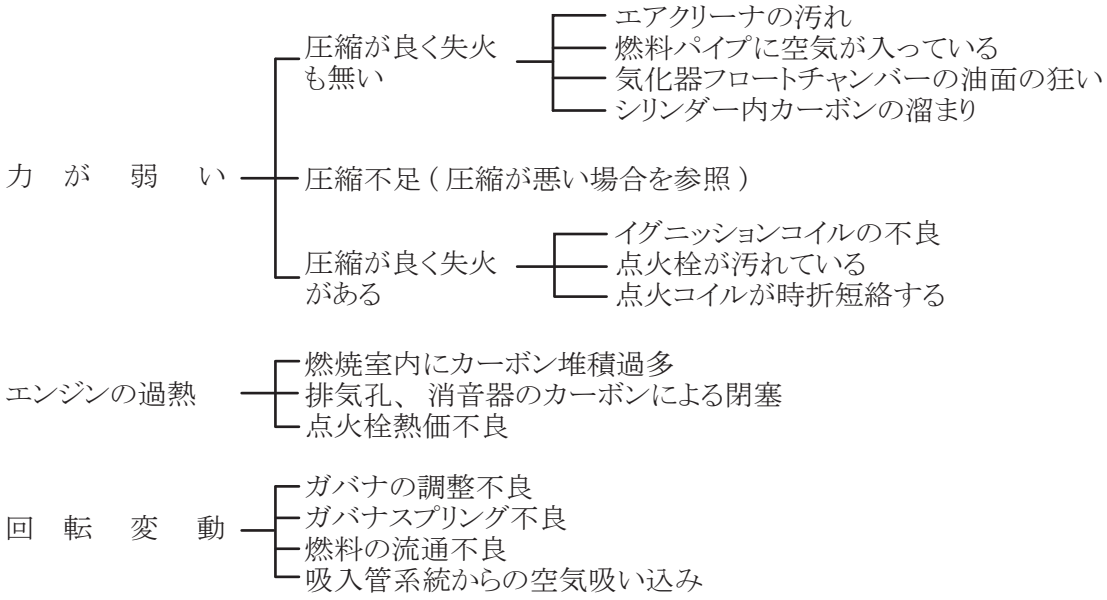
13. トラブルシューティング

13-1 エンジン

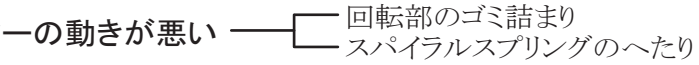
13-1-1 始動不良



13-1-2 運転不調



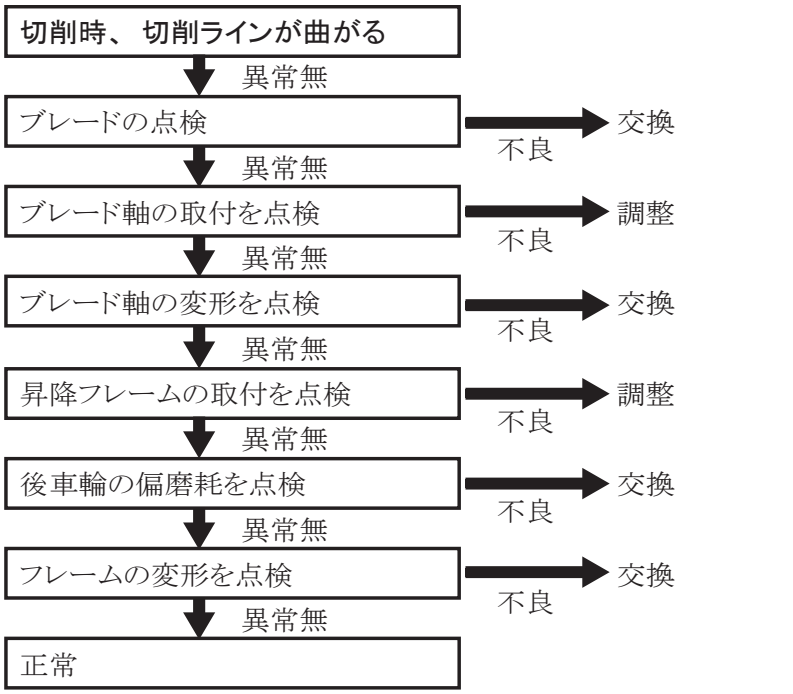
13-1-3 リコイルスターターの動きが悪い

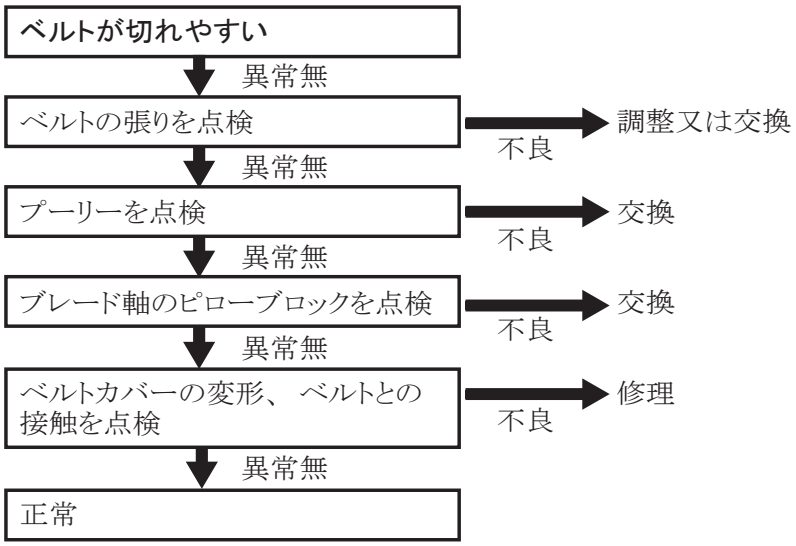


13. トラブルシューティング

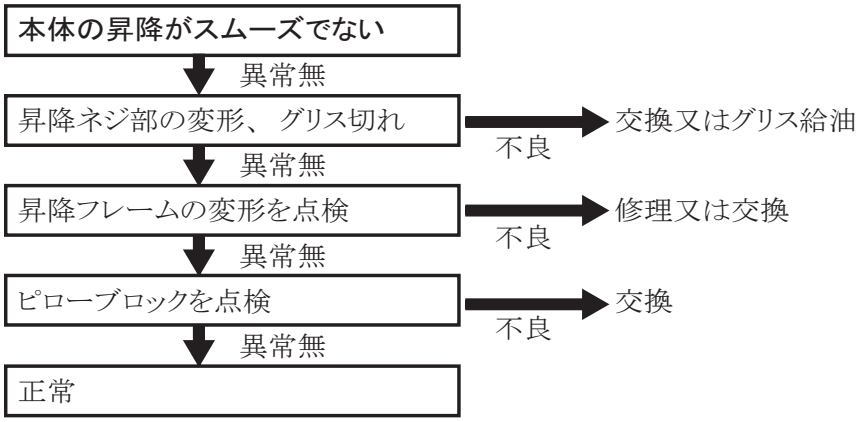
13-2 本機

13-2-1 ブレード系





13-2-2 昇降系



Mikasa

MIKASA SANGYO CO., LTD.
1-4-3,Sarugakucho,Chiyoda-ku,Tokyo,101-0064,Japan

三笠産業株式会社
〒101-0064　東京都千代田区猿楽町1-4-3

修理に関するお問合せ
TEL 048-734-2402　　FAX 048-734-7678

部品に関するお問合せ
TEL 048-734-2401　　FAX 048-736-6787

その他のお問合せ
info@mikasas.com

Web パーツリスト
https://www.mikasas.com/MIKASA/index.html

PRINTED IN JAPAN